

私たちは忘れない、大地の母の慈しみを。

にゅう せん むら  
**乳泉村の子**  
清涼寺鐘聲

中国映画界の巨匠  
「芙蓉鎮」の  
**謝晋監督作品**



中国の大地に残された  
幼い日本人の生命。  
国境を越えて描く  
感動の人間愛讃歌。

丁一・栗原小巻・濮存昕  
方超・徐俊・尤勇・李婷・林嵐・朱旭・江化霖  
・監制・干本正・胡健・監督・謝晋・脚本・李准/  
李激・撮影・盧俊福・美術・陳紹勉・作曲・金復載  
・中国・上海電影制片廠=香港・豪成影業公司合作  
・カラー/シネマスコープサイズ・徳間ジャパン  
コミュニケーションズ=東和プロモーション提供  
・東宝東和配給

日中平和友好条約締結15周年記念作品

**世界の名画を見る会Vol.1**

'96

**4.7** Sun

開場13:00 開演14:00

黒部市国際文化センター **コラーレ**(大ホール)

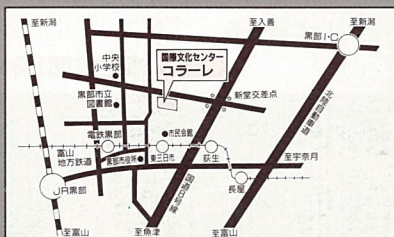
入場料/1,200円(全席自由) 当日1,500円



■講演：**高野悦子**(岩波ホール総支配人)  
〈演題〉中国とわたし

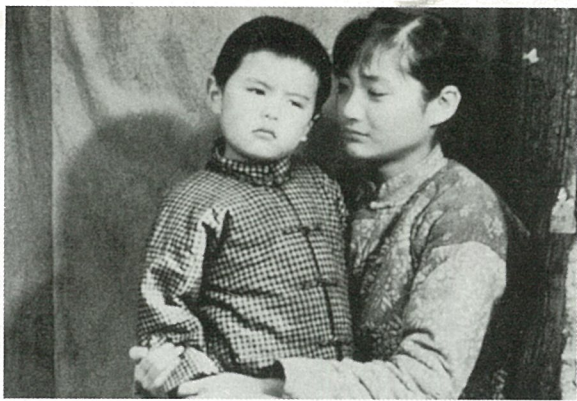
■上映作品：**「乳泉村の子」** 清涼寺鐘聲

1996年「世界の名画を見る会」Vol. 2 企画/高野悦子  
7月7日(日) ■講演：高野悦子  
■上映作品：「Tomorrow」(日本映画)



プレイガイド/コラーレ・メルシー・魚津サンプラザ・コスモ21・アスカ  
インフォマート(市民プラザ・CIC)・マリエとやま・高岡大和  
お問い合わせ/財団法人黒部市国際文化センター  
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207

「世界の名画を見る会」は3年間(年3回)開催します。



●なによりも貴い人間愛を見つめて——  
巨匠謝晋監督が描く珠玉の感動作。

日本軍が中国の各地に侵略した日中戦争は'45年8月に終結を迎えた。敗戦の大混乱の中、軍部は逸早く撤退を進めたが、後に残された民間人の避難は、想像を絶する悲惨な逃避行を余儀なくされた。戦争は常に弱者に犠牲を強いる。こうした背景下、生死の境の中で数多くの日本人の女性と生後まもない子供が、中国の大地にとり残されていった…。

この作品は中国の河南省・洛陽に近い乳泉村に捨て去られた日本人の赤ん坊を拾い、その子を“犬坊”と名付け、我が子同様の愛情をもって育てた羊角おばあさん一家と、“日本鬼子”という宿命を背負って成長した少年の辿る道程を、心あたたまる視点で描いた感動の人間讃歌である。

監督は世界的に高評を博した「芙蓉鎮」他、数々の名作で中国映画界をリードする巨匠謝晋が手がけた。

戦争の引き起した新たな傷痕とも言うべき、この題材を映画化するにあたり、謝晋監督は次の様に語っている。

“中国の山村に住む羊角大娘一家の素朴さ、善良さと情の深さ。かれらは貧しい家庭だが大きな人道主義を持ち合わせています。侵略者の子であっても、子供自身には罪はないという大義をわきまえ、黙々と困難に耐えて、人の世の最も貴い父性愛、母性愛、家族愛を注ぎます…。

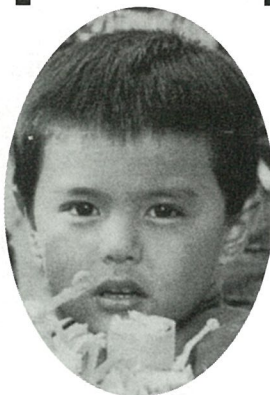
この作品は直接的な戦闘シーンを描いてはいません。私が追求しようとしたのは、戦後日中双方の数世代にわたる心の傷です。出生を知った少年の苦しみ、日夜我が子を思慕し、捜し求める日本人の母親の苦しみ、こうしたことこそ戦争の罪を如実に物語っているのではないのでしょうか。

羊角は産婆という職業柄、生命の尊さも重さもわかまえています。老いの中で自らの死を予感し、犬坊を村の清涼寺に預けます。そして戦後40年、明鏡法師として成長した彼は、海を越え日本を訪れます。明鏡はあらゆる苦難を経て、人類にとって最も必要なのは金や私欲ではなく、豊かな人間愛だと悟る。この最も深い人間愛は、まぎれもなく羊角大娘一家が与えてくれたものです。これがこの作品の奥義なのです…。”

謝晋監督作品

# 乳泉村の子

清涼寺鐘聲



●この深い愛が心を洗う。  
少年は生きた。風雪の歲月の中で…。

逞しいバイタリティー、善意に満ちた母性愛で日本人孤児を育てる羊角には、舞台俳優出身の丁ーが演じた。彼女はこの作品の中心となる存在で、役作りのため6.5キロも減量するなど、謝晋監督の厳しい演出に見事に応えた実力派女優である。

我が子を引き裂かれ、その生を信じ戦後をひっそり生きた大島和子役には、栗原小巻が中国映画に初出演した。映画での老け役は初めてであり、日本人の母親役への全力投入ぶりがうかがえる。

端正なマスクの中に憂いを秘めた明鏡法師役には、謝晋監督の前作「最後の貴族」でも主演を演じた濮在昕が当たった。この明鏡の少年時代は2人の子役によって演じ分けられた。今年14才になる方超は、3才の時、謝晋監督の『阿ノ揺籃』でデビューし、同監督の「炎の女・秋瑾」にも出演している。一方徐俊は、多数の幼児の中から選ばれ、そのあどけない愛らしさの中にも凜々しさをたたえた演技は強い印象を残す。

羊角の娘で美しく心優しい秀秀には、今年22才の李婷が演じた。また少女時代の秀秀には林嵐が扮している。これらの存在感あふれる演技陣に描かれる数々のエピソードは、観る者を深い感動の涙に誘う。

撮影は、謝晋監督と「芙蓉鎮」など7作品のコンビを組む盧俊福。ロケ地は河南省輝県の標高1400メートルの山間にある郭亮村が選ばれた。周囲を高い山に囲まれたこの村は、日昇が午前10時で日没が午後3時となり撮影隊を悩ませたが、その四季折々の風景は桃源郷のような美しさである。また、東京・横浜・奈良での日本ロケも敢行されるなど、スケールの大きい撮影となった。

戦争がもたらしたあまりにも痛ましい“戦争孤児”の存在と問題は、肉親を求めて'81年第1回の訪日調査が開始され、その深い傷痕が改めて注目された。しかし戦後47年を経た今日、この問題は急速に風化してきた感がある。このような現状の中、中国映画界が温かい心配りをもって製作したこの作品の意義は、はかり知れないほど大きいと言える。

〈上映時間2時間1分〉

ca  
@  
re

(財)黒部市国際文化センター

コラーレ

〒938 富山県黒部市三日市20  
TEL (0765) 57-1201  
FAX (0765) 57-1207